

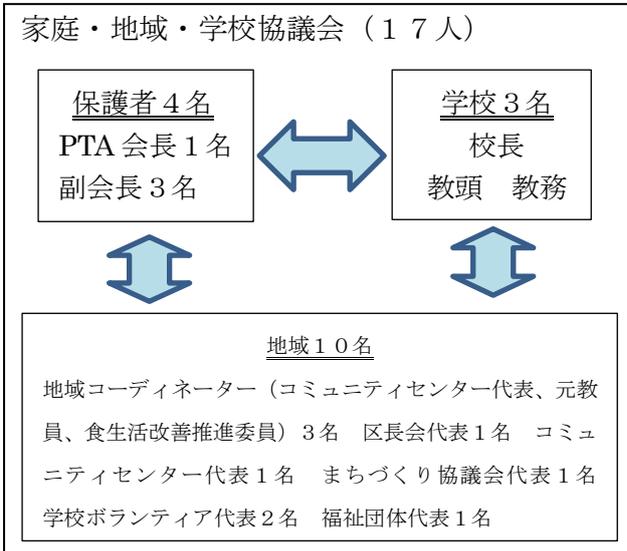
# 令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

坂井市立三国南小学校

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の設置と運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

### (2) 協議会の内容



- 第1回 7月3日
- ・学校スクールプランの説明
  - ・児童の実態及び教育課題の把握
  - ・学校評価項目の検討
  - ・地域と進める体験推進事業について
- 第2回 12月6日
- ・前期教育活動の報告
  - ・学校評価について
  - ・地域での子どもの生活安全について
- 第3回 2月26日
- ・学校関係者評価による教育活動報告
  - ・今年度の成果と次年度への課題検討

### (3) 協議会における成果と課題

協議会をもつことで、学校の様子や目標・願いを知ってもらうことができ、子どもたちのこと、地域のこと、そして、教育に関する課題等について協議することができた。教員が気がつかない地域での子どもの様子や安全面に関する情報を多く得ることができた。さらに今後は、行事だけでなく、普段から地域の方に学校に来てもらう機会を増やし、子どもたちとのふれあいの場を多くもてるようにしたい。そのことによりさらに地域の教育力も向上してくると思う。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

自分たちが住んでいる地域(三国)を知り見直す体験活動(農業体験、地産地消体験、三国の町のPR活動)を地域の方と進めることを通して、地域に学び、地域をよくしていくには何をするとよいのかを考え、実践し、ふるさと三国に誇りと愛着をもつ児童を育成する。

### (2) 活動の実際

#### ① 農業体験と三南フェスティバル (全校児童)

5年生が中心となり、日本人の主食である米ができるまでを調べ、6年生と一緒に、田植え・稲刈り・はさがけ・脱穀を行うことで米作りの苦労や収穫の喜びを学んだ。また、コイを放流し害虫や雑草を食べてもらう無農薬栽培を実施した。



1年生から4年生は、学校敷地内の畑で、4年生を中心にしてさつまいも作りに取り組んだ。毎日の水やりや除草などをがんばる姿が見られた。



11月に、収穫した餅米とさつまいもを使い、日頃お世話になっている地域の方々をお招きし、三南フェスティバル(収穫感謝祭)を行った。5年生は、米作りについて、学んだことをクイズや劇にして、全校の前で発表することができた。また、

(様式3)

前日から、食生活改善推進委員の方々の協力を得て、さつまいもの下準備をしたり、当日は地域の方と一緒にもちつきを行ったりした。そして、自ら育てたもち米やさつまいものおいしさを存分に味わうとともに、保護者や地域の方に感謝の気持ちを伝えることができた。また、友達・家族・地域の方々との絆を深めることもできた。

②三国の町のPR活動（全校児童）



5月、三国祭に向けて5・6年生がゴミ箱作りを始めた。5・6年生62名が8つの班に分かれて大きなゴミ箱を製作した。これは20年以上前から取り組んでいる活動で三国祭のメイン会場となる三國神社の環境を守るため、そして祭りに来た人に気持ちよく過ごしてもらいたいという思いから始めた活動である。祭りの前日に6年生が、8つのゴミ箱を神社の境内に設置した。

9月1日、今年も「三國湊帯のまち流し」に児童・保護者・教職員の総勢66名が参加し、三国節を演奏しながら踊った。

「帯のまち流し」の踊りは、運動会でも保護者も交え全校で踊るものである。この参加は今年で10年目となり、沿道からたくさんの応援のかけ声や拍手をいただいた。最後まで踊りきり「帯のまち流し」を県内外の人々にアピールした。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

地域コーディネーターの方には、地域の方々との調整役（米作り体験、収穫感謝祭）や、活動場所の手配や連絡調整（米作り体験時）、調理実習講師（メギスの塩茹で、さつまいもを使ったスイーツ、みそ作り、三南フェスティバル時）を行ってもらった。また、それぞれの活動の講師やボランティアの手配等をお願いした。

(4) 特に工夫した事項

- ・地域コーディネーターと相談する機会を多く持ち、今まで行ってきた活動を見直しながら実践するようにした。
- ・児童の意見を取り入れるようにしながら、計画を立て実践した。
- ・各活動のねらいとつきたい力をはっきりさせ、PTAや地域の方々のサポートを計画的にお願いし、全教職員の共通理解のもとに体験活動を実施した。

(5) 成果と課題

多くの活動する上で、地域の方々やボランティアの方々に協力していただき、子どもたちとのふれあいの機会を多くもつことができた。また、様々な活動を行う中で、自分たちが住んでいるふるさと三国のよさを再発見することができた。さらにこのふるさと三国を大切にしたいという思いを強くしていったと感じる。実際に自分たちで学んだことで、三国の食・文化財・伝統芸能などの魅力や地域の人々の温かさを改めて感じる事ができた。年度初めや年度途中で地域コーディネーターの方々とおおまかな体験学習の計画について話し合う時間を取り、見通しをもって取り組んでいくことができた。子どもたちの成長は、保護者やボランティア、地域の皆様の支えがあってこそだということを改めて感じる事ができた。

今後、児童が自ら考えたことを直接コーディネーターと話し合うような機会も取り入れ、児童が主体的に考え、取り組んでいけるよう支援していく。そして、児童の体験活動を継続して行い、その成果を外部に積極的に発信していきたい。また、地域の方々の思いや言葉を児童に返していくことで、児童自らが課題を見つけ、それらを解決していくために体験活動に取り組んでいけるように働きかけていきたい。そして、これからも、ふるさと三国に誇りをもち大事にする児童を育成していきたい。

(様式3)